

古事類苑

飲食部十一

酒下

〔尺素往來〕酒者柳一荷、加之天野、南京之名物、兵庫、西宮之旨酒、及越州、豐原、賀州、宮腰等、相副瓶子并銚子、提子、所調設之也。

毛吹草	三山城	南蠻酒	大和	僧坊酒	河内	天野酒	攝津	伊丹酒	富田酒
遠江	菊川酒	若狭	小濱酒	越前	大野酒	出雲	杵築酒	備前	小島酒
備後	尾道酒	三原酒	伊豫	島後酒		豊前	小倉酒		

〔太閤記十六〕醍醐の花見

秀吉公父子其外上膳衆かちにて、いとしづかなる有さま、人間の住家にはあらざるにやとおもはれて艶也。○中御供にあらぬ諸侯大夫并京堺の歴々より、折作物珍物其員をつくし、名酒には加賀の菊酒、麻池酒、其外天野、平野、奈良の僧坊酒、尾の道、兒島、博多の煉江川酒等を捧奉り、院内にみちて院外にあふれにけり。

〔雍州府志六土産〕酒 凡京師井水、其性清而柔、其味淡而芳、以斯水釀酒、故其味甘美、總謂京酒。又稱地酒、凡其他之出生、其所之造釀總謂地、堀川大炊通北花橋酒、近世又有蘭菊酒等、爲特宜、又京北町口一條北酒店、有稱重衡者、平重衡滅南都伽藍、凡酒自古以南都爲勝、此酒味勝南都之酒、故有此號。

〔寛政武鑑〕松平甲斐守保光○大和時獻上月南都酒。